

講義レポート

テーマ：Mt Tabor

講師：デイブ・フルマン氏（Mt Tabor の創始者）、アン氏（ポートランド環境局）

日時：2013年8月20日（火）18:30-22:00

場所：Mt Tabor（Friends of Mt Tabor Park）

文責：長野県箕輪町 土岐 俊：(研修生)

第1部：デイブ・フルマン氏（Mt Tabor の創始者）

この山は23万年前位火山で、ボウリング・ラバーフィールドと呼ばれている。1900年代に道路建設の際、火山岩が出て来たのでここが火山だと分かった。23年前から公園の改築が行われ、ごらんとおりバスケットコートやコンサートヒルができた。

私達の活動は公園の改築をきっかけにNPOとして始まった。一人最低15ドルの会費を集めて活動しており、200名余りの会員がいる。会費の余剰分が発生し、最近ポートランド市の交通局に4万ドル程寄付した。

主な活動は安全で自然な公園を維持する手伝いである。週2、3回のパトロールすることによって異常を発見し、それを市に報告する。また、犬がリードなしで放たれるのを防止したり、ゴミ拾いをしたり、落書きを消したりする。

この公園は市内では丘の上にあるという珍しい立地で、広さは200エーカー、標高643フィート。結婚式、自転車レース、ランニング、スケボー、子供の自然キャンプなどに活用され、夏にはコンサートヒルで毎日コンサートも行われる。ポートランドでは夏が最高の季節で、今まさにこの時期のために生きている。

最近、ビジターセンターを作った。1万人が来場しており、教育的な役割も果たしている。）

（世界地図が貼ってあり、来訪者はどこから来たかをピンで刺すようになっている。）

ボランティアはみんなネイバーフッド。200人もの市民が自分の地域の公演をケアし、関わっている。

私達に関わる前のMt Taborはどうだったか。1960年代まではFamily Friendlyな公園だったが、1970年代から荒れてしまい、安全でない公園になってしまった。1990年代に市の公園局が大規模な公園の改修を行い、その際に市からネイバーフッドアソシエーションに対してサポートグループに入らないかと誘いがあった。ネイバーフッドアソシエーションは公園がきれいになると地価が上がることからその誘いに乗ることにした。公園局、消防署、水道局、ネイバーフッドアソシエーションオフィスなどと協力関係を築き、公園アソシエーションから表彰を受けたりしたこともあって、彼らも私達のことを非常に信頼してくれるようになった。

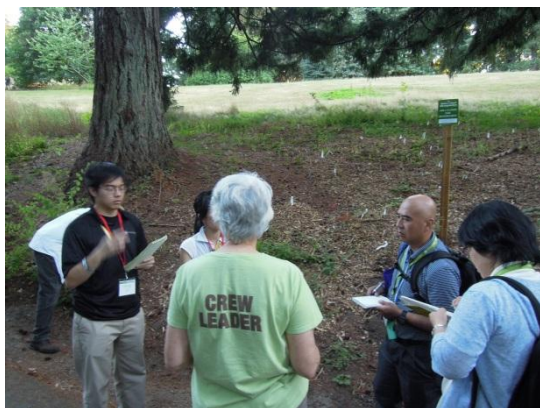
Weed Warriors（雑草引き抜き隊）という、雑草抜きのボランティア活動もある。一週間トレーニングして外来種の雑草と原生の植生について学び、外来種を抜き、元の植生を植え直していく取り組みだ。ボランティアが楽しんで帰ってもらえるようにしている。市民も

ボランティアの活動を尊敬してくれているので、いい関係ができています。

どんなプロジェクトが成功するのか？それは良い関係があるものだ。

2007-2008 年には公園を良くする計画さえなかった。市の環境サービス室が湿地の調査や Mt Tabor の評価を行い、誰が、何を、いつやるかが決まり、自信がついてきた。

そこは中学生が先日原生植物であるシダを植えたところだ。



(感想)

仕事をリタイヤした方を中心に山のご近所のネイバーフッドが集まって、地元の公園管理を楽しそうにしているという印象だった。ポートランドは町中に公園があるが、その多くでこういったボランティアと協力関係を結び、公園管理をしている。大規模な公園であり、市としても彼らの協力なしには公園管理が成り立たない。メンバーの一人が、ここに住んで幸せだ、と言いながら去って行った姿がとても印象に残っている。

第2部 アン氏 (ポートランド市環境局)

Mt Tabor のふもとの住宅地域では地下の下水の管が古く、市が成長するのに合わせて拡大してはきたものの、雨が降ると下水の管が小さいために雨水を飲み込み切れず、オーバーフローする事が起きている。それゆえに市としては道路から雨水が下水直接流れ込まないよう、花壇を作ってそこで雨水をプールし、負荷を下げる取り組みを行っている。Mt Tabor とパートナーシップを結んでおり、道路脇からの雨水流入は花壇で抑えているが、それ以外の場所までは手が回らないので、コミュニティを巻き込んでコミュニティ中で取り組むことにした。NAへの話しかけ方としては、現在こういう問題があり、それは私達がやったわけではないが(過去の管の設計がまずかった)、どう考えますか？皆さんの庭は、保水の可能性を秘めています、というふうにした。

10年前、14億4千万円の予算でこの地域の下水管の布設替えを行う計画があったが、それをやめて6億3千万円でグリーンスペースをつくることになった。コストダウンももちろんだが、この活動を通じてコミュニティの育成につながった。現在、500か所のグリーンスペースに3,500株の花を植えて、レインガードを保持している。



その後、ビアストーミングしながらのアンさんの話。

グリーンスペースをつくる取り組みは、駐車場に作れば一台分車を置くスペースがなくなってしまうし、手間もかかるので、どうやって広めようか考えた。このレストラン（多分地域で一番おしゃれで素敵と思われる、皆の憧れの、お客さんもやや富裕層がくるレストラン）のオーナーと私は知り合いだったから彼女に頼んでグリーンスペースを設置してもらった。地域で素敵だと思われている場所で、そういった取り組みをすると「これ何？」と思ってもらえる「私も」と思ってもらいやすい。また、グリーンスペースを設置したカフェで、グリーンスペースの写真を室内に飾ってもらい、「このかわいい写真、何？」と興味を持ってもらえるようにした。（グリーンスペースを作ることが先進的で、かわいいと思わせる仕組みを作った）。一番の成果は地域でグリーンスペースを介したコミュニティができたこと。

実際に、店員の若い男性も特に打合せしているわけでもないのにグリーンスペースについて嬉しそうに積極的に説明してくれ、彼の口から「持続可能性」という言葉が出てきたことには驚いた。コップに残った水を透水性舗装した駐車場に撒くパフォーマンスも見せてくれ、アンさんの戦略が見事に実を結んでいる姿を見ることができた。

